

薬剤部 DI ニュース

小児への薬の飲ませ方について

小さなお子さんへの薬の投与は大人以上に注意や工夫が必要になります。そこで今回は、小児の味覚、薬の飲ませ方などについてまとめてみました。

●小児の味覚

人間は味覚として5大要素があるといわれています。甘味、酸味、塩味、苦味、旨味です。生後6か月以内は甘味、旨味、塩味を好むとされています。生後6か月を過ぎると甘味、塩味を好むようになります。塩味の感じ方に対して成人と同様になるのは、生後4か月以上が経過した後とされており、同じ味でも成人と同様というわけではありません。また、小児は成人よりも苦味を強く感じるといわれています。年齢によって味覚は変化していき、次第に記憶力・学習力がついていくことから、最初は飲んでいた薬であっても1～2歳ごろから吐き出すようになったり、食べ物の好みが変わって来たりします。

●薬の飲ませ方

1.スポイト

薬を1~2mLの水、または白湯で懸濁し、スポイトできれいに吸い取り、ほほの内側に流し込む

2.哺乳瓶の先

空の哺乳瓶の乳首だけをくわえさせ、吸い始めたら1~2mLの水か白湯で溶いた薬を乳首内にたらず飲み口の穴で薬が詰まることも多いので爪楊枝などで少し広げておく

※ミルクと一緒に飲ませるとミルク嫌いになることがあるため時間をずらすこと、空腹時の方が反射的に飲む場合が多いことがポイント

3.スプーン

スプーンの上に薬を出し1~2mLの水で溶いて内服した後に、口の中に薬が残らないように水や甘い飲み物を飲ませる

4.食べ物に混ぜる ※薬と相互作用がない場合

食べ物に混ぜる場合は混ぜたものをすべて食べさせないといけないので混ぜる量に注意が必要
ゼリーなどで服薬させる場合は混ぜ込むのではなく薬をゼリーで包み込んで服用させる

※服薬補助ゼリーなどの製品もあるが服用する薬によっては苦味を感じ服用しにくくなるものがあるため注意が必要